

## ====支部だより====

### 1957年以降の北海道支部会報，支部だより，および 機関誌「細氷」の電子版公開

北海道支部は1957年6月に創立され、1960年8月まで「北海道支部会報」1号～3号を、1962年1月～1986年7月までは「北海道支部だより」1号～32号を、さらに1987年7月以降は機関誌「細氷」を刊行してきました。修正跡も生々しい手書き原稿ならではの味わいのある支部会報1号（1957年7月15日付）には、長という職を避けていたはずの中谷宇吉郎が初代支部長であったこと、同年11月に札幌で開催された全国大会での気象学会75周年記念式典講演が和達清夫・中谷宇吉郎両氏で行われたこと、畠山久尚学会理事長から支部活動費として1万円交付されるという通知があったこと等々貴重な情報が残されています。また、「北海道支部だより」第1号では川口貞夫（札幌管区気象台（当時、以下同））の「オーロラ撮影」、日下部正雄（札幌管区気象台）の「契比天刀摩須武羅喜須頓」（カピタン・トーマス・ブラギストン）、孫野長治（北大・理学部）の「濠州の人工降雨」が寄稿され、それ以降、専門家による分かりやすい解説記事が支部の活動報告と合わせて毎号掲載されています。

しかしながら紙媒体のままでは、保管や印刷費・送料が負担となってきました。このため2004年12月に開設した支部のホームページ（<http://www.metsoc-hokkaido.jp/>）をきっかけとして、文書の電子化が提案されました。網倉 真担当幹事（2011年5月逝去）によるスキャナーを使った献身的な電子ファイル化から始まり、その後事務委託によって昨年（2016年）ようやく電子媒体化がほぼ完了しました。

ただし、電子化されたこれらの記事を公開するためには、全ての著作物の著作権を北海道支部が有する必要があります。そこで、日本気象学会機関誌「天気」や「気象研究ノート」の電子媒体化の公開と同様な手続きを行い、2017年7月から正式に支部のホームページから閲覧が可能となりました。幸い、著作権委譲を待ったこの1年間で、紛失していたと思われる数号が気象台の倉庫から発掘され、晴れて全号の電子化の目処も立ちました。これまで北海道支部会員が半世紀以上にわたって享受してきた貴重かつ興味深い記事を、多くの学会員にも読んでいただきたいと思ひます。